

SCJ 記録認定会 実施要項

1 SCJ 記録認定会の目的と実施要項の定義粒度

次項に定める SCJ 記録認定会の目的を十分に達成するため、この実施要項では過度に厳密な競技環境や運用の定義へ言及していない。

以下に記載がない事項については、SCJ 記録認定会の事業趣旨を鑑み、認定員と SCJ の協議により決定する。参加者が、SCJ 記録認定会の価値や公平性を損なう個別の大きな利益を得ると考えられる場合を除いて、中長期的かつ教育的配慮に沿った寛容な判断を基本方針とする。参加者は、一般の良識に基づき行動し、制度の細かな不備を指摘して全体の混乱を招く行為をしてはならない。

2 SCJ 記録認定会制度の目的

SCJ 記録認定会制度は以下の目的を有す。

1. スピードキュービングの健全な普及と発展のため、多数の方々にスピードキュービングの楽しさを知ってもらう機会を提供する。
2. 6面完成よりも前（例：1面完成等）の実力を認定する制度を提供する。
3. スピードキュービングに全く興味がない層とのコミュニケーションツールを提供する。

3 SCJ 記録認定員の監督

- SCJ 記録認定会を監督するには、すくなくとも1名の SCJ 記録認定員（以下、認定員とする）が実施に立ち会う必要がある。
- 不慮の事故により、当日監督する認定員が不在となった場合は、SCJ 記録認定会は成立しない。

4 参加者

- 参加人数の決定や承認方法は、認定員の裁量による。事前の参加申込や当日飛び込み参加など、妥当な方法を採用してかまわない。
- 参加者が年少者などの理由から参加者本人に責任能力がない場合、保護者や後見人の同伴が必要となる。
- 主催者は、円滑な事業運営のため、参加者の募集対象をいくつかのカテゴリに分け、そ

の全部または一部に適切な制限をかけることができる。

- 国籍
- 居住地
- 年齢
- 過去のイベント参加経験
- 抽選
- これらの複合条件
- その他、妥当と認められる事項

5 パズル

- 記録認定会に使用する 3x3x3 キューブパズルは参加者が持参する。
- 明らかに参加者が利益を得るようなものでない限り、一般的なパズルを使用できる。

6 記録認定証

- SCJ 記録認定会で発行する記録認定証は、SCJ が公式に発行するフォーマットの用紙(以下、用紙と呼ぶ)を用いなければならない。市販の一般的な賞状用紙などで発行してはならない。
- 用紙は、認定員のみを対象として提供する。詳細は別途定める。
- 認定員は、参加者数を予測し、当日の飛び入り参加や書き損じなどのトラブルを考慮した適切な枚数の用紙を準備する。

7 SCJ 記録認定会の開催告知

- SCJ 記録認定会を開催するとき、認定員はその企画概要を事前に SCJ に通達しなければいけない。SCJ は内容を審査し、不適切な点については変更を求める場合がある。
- SCJ 記録認定会の実施は、その開催を広く一般に公表せず、一部のグループや対象者のみに限定することができる。ただし前項に定めるとおり、SCJ には必ず通達する。
- SCJ 記録認定会の実施を広く一般に公表する場合、認定員は適切な媒体を準備してその概要や参加方法、問い合わせ連絡先などを周知しなければいけない。
- 集客などを目的として SCJ 記録認定会の実施を宣伝したい場合、SCJ の web サイトや SNS での宣伝を依頼することができる。ただし、SCJ は前項で定める一次媒体への誘導のみを補助する。SCJ の持つ媒体に一次情報を掲載することはできない。
- SCJ の後援をクレジット記載する場合、以下の表記に倣い「主催」「後援」をセットで記載する。SCJ が主催であると誤認されないよう、後援のみの掲載は認めない。

- 主催：個別の実行委員会名や個人名
- 後援：一般社団法人スピードキュービングジャパン (SCJ)

8 認定部門

- SCJ 記録認定会で認定する部門は、SCJ 段級位認定基準の対象となっている部門に限る。
 - 3x3x3 キューブ 6面完成
 - 3x3x3 キューブ 1面完成
1面完成とは、任意の色の面にその色が9マス揃っていることである。いわゆる完全一面である必要はない。
- 記録認定証には、以下を記載する。
印刷でも手書きでも構わない。
 - 認定対象者の氏名
 - 発行年月日
 - 有効年月日（発行日同日の1年後）
 - 参加部門
 - 記録タイム
 - 部門と記録に基づく SCJ 段級位認定
 - 発行する認定員の登録名がわかるサインもしくは押印
 - 参考記録としての取り扱い有無（通常の記録であれば何も記載しない）
- SCJ 記録認定会の実施結果や、個別に発行した記録認定証やその記載事項は、必ずしも主催者から一般に公表する必要はない。これは、個々の参加者が自身の結果について公表するのを妨げるものではない。

9 認定のルール

- パズル完成状態の定義
 - 1面完成：3x3x3 キューブ 6色のうちいずれか1色の面がひとつ揃った状態。いわゆる「完全一面」である必要はない。
 - 6面完成：3x3x3 キューブの6色6面がすべて揃った状態。
 - 1面完成部門、6面完成部門ともに、完成状態から45度以上回転がずれた状態は未完成とみなす。ただし、未完成状態の度合いによって、別項目で定める参考記録を適用する場合がある。
- 参考記録
 - 参加者自身の責任により、パズルの完成状態に代表される実施要項の項目を満た

さなかった場合でも、悪質でないものと判断できるときには、参考記録として認定証を発行する。

◇ 例)

- タイマーを止めた時点でパズルが完成状態ではないが、参加者が自力でのパズル完成能力を十分有していると客観的に明らかな場合
 - タイマー停止時、パズルの完成状態からある面が 45 度以上ずれている。
 - タイマー停止時、パズルの複数の面がずれているが、完成状態から近いことが明らかである。
 - タイマー停止時、パズルのパーツの一部が外れている。
 - タイマー停止時、参加者が採用している解法の枠組みにおいて、完成直前の最終ステップの作業工程を間違えた状態となっている。
 - インスペクションタイムが 15 秒を大きく超過した場合
- 参考記録として記録認定証を発行する場合、記録認定証の紙面にその旨を明示する。
- 競技環境
 - 本番計測を行う環境は、会場内で明確に区別された空間で、SCJ 記録認定会を実施しているあいだには別の目的と併用してはいけない。
 - 認定員は、本番計測を行う際の机上を必要最低限の備品のみを保ち、清潔感を向上させるよう努力する義務がある。
 - ◇ 認定員は本番環境の周囲に荷物置きスペースを準備すると良い。
 - ◇ 本番計測に使わないパズルは、机上に置かない。
 - ◇ スマートフォンやタオル、カイロなどの携帯品は、机上に置かない。
 - ◇ 試技の撮影は、机上にカメラを置いての自撮りではなく、保護者や別の参加者などに依頼することが望ましい。
 - 参加者は、本番環境でのタイマー操作練習や、予備パズルを用いた計測をしてはいけない。
 - ◇ 認定員は、本番環境を模した練習用スペースを別途会場内に設け、タイマーの操作方法など一連の流れを予習する機会を十分に設けることが望ましい。
 - 計測器具
 - タイムの測定には、スピードスタックス社が販売するタイマーのうち、G3, G4, G5 のみを認める。その他のメーカーの製品や、ストップウォッチ、スマートフォンのアプリなどによる測定はすべて認めない。

- ◇ 小数点第3位まで計測できるバージョンの場合、第3位の数字はすべて切り捨て、小数点第2位までの表示を採用する。
 - タイマーに接続するディスプレイは使用しなくても構わない。使用する場合は、スピードスタックス社が発行するブランド製品のみを認める。
 - タイマー操作時に、参加者はパズルから手を離していなければいけない。特に計測開始時は、指先をタッチセンサー部に乗せて静止する。
 - ◇ 参加者のタイマー誤操作があったとしても、記録認定会の趣旨や公平性を著しく損なわないと認定員が判断した場合は、正常なタイマー操作があったものとみなすことができる
- 記録形式
 - 認定する記録は単発記録のみとする。
 - 挑戦回数
 - 挑戦回数は、同日内にひとり1回のみ限定する。同日内に複数回の参加はできないが、翌日にはまた参加できる。参加者のID管理をしない場合、認定員は、複数回参加を認めないように最大限の注意を払う必要がある。
 - 参加者本人の責任ではないトラブルが起きた場合に限り、その記録を破棄してのやり直しを認める。
 - ◇ 参加者本人の責任であるものと考えられ、やり直しを認めない例
 - 参考記録として認定証を発行する場合
 - 緊張などによって、本人が期待したよりも悪い結果となった場合
 - タイマー操作の不慣れによって、タイマー停止時にパズルが完成していない場合
 - ◇ 参加者本人の責任ではないと考えられ、やり直しを認める例
 - タイマーなど器具の故障
 - 会場の停電、突発的な騒音などの環境要因
 - スクランブルなどの誤操作で、競技開始時点でのパズルが完成不可能な状態だった場合
 - その他、明らかに本人が不利となる妨害を受けた場合
 - スクランブル
 - パズルのスクランブルは、認定員か、もしくはその認定員の責任において十分な能力を持つと認められる担当者が行う。
 - スクランブルの結果、任意の色の面にその色が6マス以上揃っていた場合は、再度スクランブルし直す。
 - プログラムでランダムに出力したスクランブルを適用する必要はない。十分に混

ざった状態だと認定員が判断できれば良い。

- ◇ プログラムで出力する場合、参加者ごとに異なるスクランブルを用意する。印刷した用紙を参照するなどして同じスクランブルを使いまわしてはならない。

- **インスペクション**

- パズルを解き始める前に、パズルの状態を観察し解き方の作戦を立てる時間(インスペクションタイム)を最大 15 秒与えられる。
- 15 秒は最大であり、参加者は無理に 15 秒待つ必要はない。準備ができたなら、自分のタイミングでタイマーをスタートさせパズルを解き始めてよい。
- タイマーをスタートさせる前にパズルを回転させてしまった場合は参考記録とする。
- 認定員は、15 秒以内に開始できるよう参加者に競技開始を促す。参加者がこの勧告に速やかに従わない場合は、記録を認定せずに参考記録とする。
- 15 秒の見積もり方法は認定員の裁量による。ストップウォッチなどを使って厳密に測定しなくても良い。

- **認定員の役割の委譲**

- 認定会当日のタイム計測に限り、認定員はその役割を他の信頼できるスタッフに委譲することができる。
- 役割を委譲されたスタッフによる認定は認定員と同様の効果を持つ。役割を委譲されたスタッフにより生じた問題は認定員が責任をもって対処しなければならない。

10 記録認定会終了後の手続き

- **結果の報告**

- 認定員は、記録認定会の実施の公表/非公表によらず、すべての結果を所定のフォームから SCJ に報告する。

- **結果の集計と公表**

- SCJ は、集計された結果を適切な範囲で公表することができる。

11 記録認定の取り消し

- 認定員の監督に悪意ある運用や不誠実な行為などが認められた場合、SCJ はその認定員が担当した過去の認定結果に対して、遡及的にすべての認定を取り消す場合がある。